会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 阿久根由美子
日 時	平成24年2月13日(月曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 25 分
出席委員	小島 立花 山本 田中 吉田 西村 堤		
執行機関出席者	高屋まちづくり推進部長、柴田まちづくり推進部理事、 中井桂川・広域交通課長、垣見桂川・広域交通課主幹		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 - 名()

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

〔小島委員長 開議〕

〔事務局 日程説明〕

〔まちづくり推進部 入室〕

10:03

2 議題 バス交通について

〔まちづくり推進部 説明〕

10:15

〔質 疑〕

<吉田委員>

資料の中の亀岡モデルという表現は、市内全域なのか地域限定なのか。

<桂川・広域交通課主幹>

亀岡市の地形を説明しないと検討できない、地図指定、地形地域情報をメールで送付する。一定の区域を絞ってからになる。

<吉田委員>

亀岡市で絞り込むのか、東大研究室ですか。

<桂川・広域交通課主幹>

現時点では決めていない。基準の人口密度でもって一定区域指定をしてから相談をしていきたい。

<西村委員>

東大が行うのか。

システム使用料等負担は必要か。

<桂川・広域交通課主幹>

研究自体は東大の研究室で行われ、運営自体はコンサル担当会社が行う。

詳しくは承知できていないが、コンサルのメインサーバ運営費が必要で、エリア、台数により費用設定される。南丹市は京阪京都交通㈱にオペレータを置く費用が必要であった。1社が30自治体一括で請負うので割安になる。

<西村委員>

調べておきたい。

<山本委員>

デマンド交通のテスト実施等導入までのスケジュールは。

<桂川・広域交通課長>

アンケート調査を実施してからである。

<山本委員>

東大への相談はアンケート調査を実施してからなのか。

<桂川・広域交通課主幹>

アンケート調査結果でデマンド導入を決定することになると思うが、デマンド導入の研究は並行して進める。アンケート結果をみて実施の検討を行う。

<堤委員>

高齢者や学生の利便性だけでなく、亀岡市は観光を打ち出している所以観光の観点からも路線設定を考えるべきと思うがどうか。

<まちづくり推進部長>

観光面の十分な検討はできていないが、現路線のふるさとバス、コミュニティバスも観光目的で利用いただいている。

<堤委員>

バス交通の観光部門との連携、経済効果を考えていかないといけない。研究をしてもらいたい。

<まちづくり推進部理事>

本市の公共交通は通勤通学の利便性確保を抜きにはできない。財源確保の難しさもある。アンケート調査により検討を進めていきたい。

<桂川・広域交通課長>

観光との連携は必要だと考えている。

<堤委員>

千歳町、馬路町など七福神めぐりのハイカーも多い。ダイヤも含め検討しないといけない。

<まちづくり推進部理事>

七福神等整備は議会でも整備の要望をもらっている。地元との協議も進めている。訪問者の利便性も検討の必要があると考えている。

<吉田委員>

アンケート調査でデマンド交通を問うことになるのかと思うが、デマンド交通に対する認知度はどうなのか。知らない人には不要ということになるのでは。

<桂川・広域交通課主幹>

ほとんど認知はされていない。アンケート調査のとり方が問題で、誰が、どのような目的で乗るのか調査し、判断したい。「デマンド交通」の言葉を使った問いは控えたい。

<立花副委員長>

議会報告会で、「市立病院のバス停は病院の玄関前なのが当然」という意見が出ていた。「大型バスなので無理である」と回答すると、「何を考えている、問題だと思わべき」と言われた。篠町ではコミュニティバス運行の要望もある。

議員が聞いている市民の要望も反映しながら、具体的なアンケート調査の検討をこの委員会で議論していけばよいと思う。地域公共交通会議でのご意見も含め、アンケート調査をまとめるなら、もう検討を始めないと計画どおりにできない。この委員会の議論もアンケート調査の具体的な中身について進めてもらえればよいかと思っている。

<西村委員>

宮前町での議会報告会でも意見を聞いた。JRとの連携が3分しかなくできないことや、京阪京都交通運行バスとふるさとバスとの違い、料金の違いが依然として理解されず不満を持っておられることも感じた。これらも含めて議論していきたい。

<まちづくり推進部理事>

料金の説明はするが、納得されてもやはり不満が残るようで、解消しきれない。原点に戻りアンケート調査で意見を聞き検討を進めたい。

<田中委員>

畑野コースF34は土、休日運休。休日しか買い物に行けない人にとっては支障がでる。土ヶ畑、クルビ谷、布子谷から休日に出かけるのは大変。F34の休日運行を。又はF33を高橋止まりでなく土ヶ畑まで運行を。他の路線活用など対応を考えないと、高齢化が進めば買い物にも行けないことになる、改善を望む。

<桂川・広域交通課長>

費用のこともある。研究して取り組む。

<小島委員長>

アンケート作成について協議する。執行部の考えを。

<まちづくり推進部長>

アンケートに特化した検討方法として、

議会と行政、利用者も含め検討

地域公共交通会議で部会を設け検討

行政側で素案を作り本特別委員会で議論、検討

などが考えられる。ご意見を聞きたい。

<立花副委員長>

市民の声をどう反映するのかである。全体構想を見据えたものか、デマンド交通を含めるのか、前回は土台にするのかなどアンケート調査の考え方も議論したい。

<堤委員>

アンケート調査結果で意見が多ければ実現するのか。増便、低料金の要望はあっても全て実現できるものではない。

<桂川・広域交通課長>

形だけの調査にしたいわけではない。乗ってもらえることが前提。100%要望に答えられないがより多く答えていきたい。

<西村委員>

調査の時期は前倒せないものか。

<まちづくり推進部理事>

24年度は内容の検討が必要。25年度に実施予定である。

<西村委員>

実現は26年度か。

<まちづくり推進部長>

26年4月からというのは、全体の計画策定も行うので無理である。26年度中に実施予定。25年5月に国の内示を受けアンケート調査が進められる。

<西村委員>

26年度のいつか。

<まちづくり推進部長>

JRのダイヤ改正に合わせる。26年3月は難しい、26年9月か27年3月になる。地域公共交通会議の決定などを考えると27年3月の可能性もある。

<立花副委員長>

アンケート調査は前回より充実したものを考えているのか。

<まちづくり推進部長>

前回調査では意見が十分聞けずクロス集計もできず消化しきれなかった。前回の反省を含め議会と一緒に取り組んでいきたい。

<立花副委員長>

東部地域へのアンケート調査もしてほしい、地域別にアンケートをとることもできるのか。

<まちづくり推進部長>

できる。委員会でアンケートのとり方の意見をいただきたい。

<立花副委員長>

世帯、個人、地域別の項目など議会で検討すればよいと思う。

<堤委員>

市立病院、大型店舗、民間業者との連携、料金体系など、中心部は低料金で利便性高い、市民負担の公平性の観点からの検討も必要。

<まちづくり推進部長>

アンケートをとる場合には全ての項目を出して、そこから考えていかなければならない。早く議論に入りたい。特別委員会とともに進めて、積み上げていきたい。取り組み方について議論願う。

<立花副委員長>

4月に全議員対象に地域別のワークショップをしてみてもどうか。アンケートの原案にもつながる。

<西村委員>

議員は地域に根差していないといけない。よい考えだと思う。

<山本委員>

地域別に意見を出し合うのはよいことだと思う。

<堤委員>

賛同する。

<桂川・広域交通課長>

ワークショップでの意見をもとにアンケートのたたき台ができると思う。

<まちづくり推進部長>

ワークショップでの意見を取りまとめ、執行部と議論を積み上げアンケートの素案を作ることを確認させていただきたい。(了)

<事務局>

ワークショップは全員協議会の場になる、正副委員長から議長に申し入れしていただき、議長が招集される。3月中には一度特別委員会を開催し、ワークショップの事前の打ち合わせをしていただきたい。

<委員長>

次回委員会は、3月定例会中に開催する。日程は追って連絡する。

散会 ~ 11 : 25